

琵琶湖疏水を巡る（安祥寺～蹴上）

案内 久野洋人

【行程】 10：00 JR 高槻駅改札外 → 10：40 JR 山科駅改札外 → A 安祥寺 → B 安祥寺舟溜り → C (WC) → D 天智天皇陵 → E 昼食 (F 本圀寺等散策含む) → G 栗原邸 (旧鶴巻邸) → H 第 10 号橋 → I (WC) → J 第 11 号橋 → K 栗田口名号碑 → L 京津国道改良記念碑 → M 車石公園 → N 栗田口刑場跡 → O 蹴上疏水広場 (解散) 歩行距離約 6 km

ご注意 交通ルールを守りましょう。事故・災害について当会は一切責任を負いません。
関西歴史散歩の会 久野洋人 〒567-0878 茨木市蔵垣内 3-14-27-302 携帯 090-1583-9781

A～E、G～J 地図・解説とも「山科疏水 2」参照。F 地図は「山科疏水 2」参照、解説は次頁以降参照。K～N 地図は以下参照、解説は次頁以降参照。O 地図・解説とも「蹴上周辺」参照。



E 本圀寺

日蓮宗の大本山であり六条門流の祖山で、「西の祖山」と呼ばれる。建長 5 (1253) 年に日蓮が鎌倉松葉ヶ谷（まつばがやつ）に建立した法華堂が起源とされている。貞和元 (1345) 年鎌倉から京都六条堀川に移転、本國寺と改称した。永禄 12 (1569) 年には本國寺を居所としていた足利義昭が三好三人衆により襲撃される事件（本國寺の変）が発生した。貞享 2 (1685) 年、徳川光圀は当寺にて生母久昌院（きゅうしょういん）の追善供養を行い、光圀から圀の一字を下され、本圀寺と改称した。天明 8 (1788) 年の天明の大火では経蔵（現存 国重文 1607（慶長 12）年）を除く伽藍が焼失した。昭和 46 (1971) 年旧地から現在地に移転。旧地は西本願寺の北側で、本願寺聞法会館や駐車場の敷地となっている。本圀寺の移転後も塔頭 16 院は旧地に残り、五条通り南北の猪熊通沿いに所在している。

K 栗田口名号碑

木食養阿(?~1763)は、享保 2(1717)年に京都の葬送地や刑場に慰霊のため「南無阿弥陀仏」の名号碑を建立した。この碑はその一で、栗田口の刑場に立てたものであるが、のち遺棄され、昭和 8(1933)年の国道改修工事の際に折れた上半部のみが出土し現在地に据え置かれた。昭和 40(1965)年に下半部を補い復元されている。

「木食養阿上人絵伝」（安祥院蔵）には「三条栗田口御仕置所は別而重罪超過の所なればとて、石塔も亦余所に過れて大サ壺丈三尺余」と記す。なお、北面下半部に西光院中興西隠の建碑と記すことは不詳。（京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都より）

L 京津国道改良工事竣工記念碑

京都市の蹴上と天津市の札の辻を結ぶ京津国道は、昭和 6(1931)年から昭和 8 年にかけて、内務省大阪土木出張所京津国道改良事務所により拡幅舗装が施工された。この碑は工事竣工を記念して建てられたもので、3 段の基壇には三条街道車石の廃材が使われている。また碑本体には縦に溝が走っていて、車の通行で溝ができた橋材を再利用したものと考えられている。

M 車石（公園）

江戸時代の京都周辺の三街道（東海道・鳥羽街道・竹田街道）には、人や馬の通る人馬道とは別に、一段低い所に二列に敷かれている一種の軌道があった。この軌道が車道である。車道は、幅が九尺 (2.7m) で、長さ一尺 (90 cm) の牛道をはさんで 2 列に花崗岩の石が敷かれていた。この石が車石で、標準的な大きさはたて 30 cm、横 60 cm、厚さ 25 cm ~ 30 cm ぐらいで、その上を牛車の車輪が通ることから輪通り石、輪石、輪形石などとも呼ばれている。

（車石・車道研究会 HP）

N 栗田口刑場跡

“京の七口”の 1 つ、栗田口は東海道から京都の町への入り口にあたる。そして、このような大きな街道筋の町外れには決まって刑場が置かれていた。

栗田口刑場は江戸時代より前から刑場として機能していたとされ、約 15000 人が処刑されたと推測されている。江戸時代には毎年 3 回この地で処刑が公開された。そして刑死者の供養として、京都の各宗派寺院が 1000 人ごとに供養碑を建てたという。その数は幕末までに 15 基に及ぶ。しかしこれらの供養塔は明治の廃仏毀釈によって撤去され、石材として転用されてしま

ってほとんどが失われてしまった（一部は日ノ岡に復元されている）。

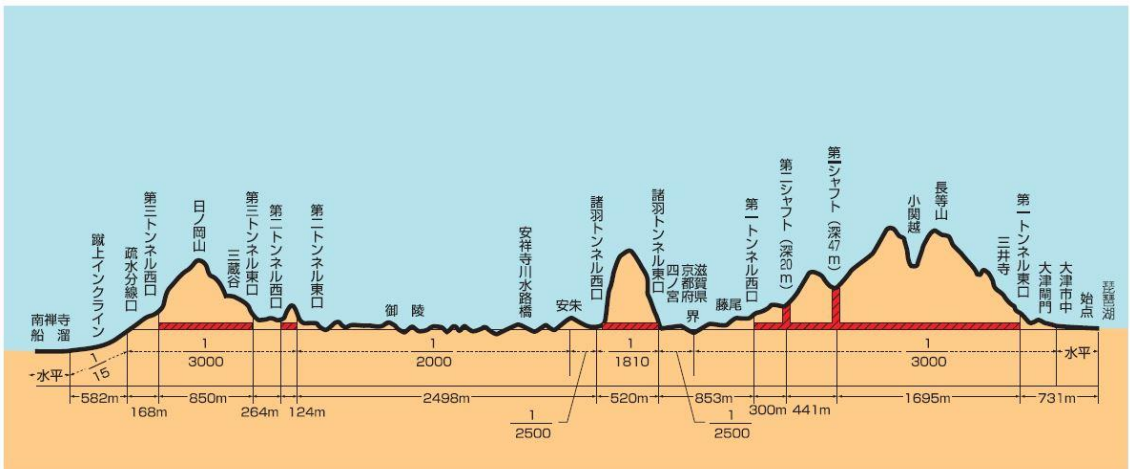
栗田口の刑場は明治維新後に廃され、明治5年（1872年）に舎密局の申請で京都府によって同地に栗田口解剖場が置かれた。記録によると、解剖場は四面がガラス張りの建物で、翌年に刑死した4名の解剖がおこなわれて多くの医師がその様子を参観したとされる。しかしその年には解剖場は病院に移転となり、この土地は忌み地として残されたのである。現在刑場跡に残されている2つの石碑は、この解剖場時代の供養塔である。（日本伝承大鑑より）

琵琶湖疏水

琵琶湖疏水は、大津市観音寺から京都市伏見区堀詰町までの全長約20kmの「第1疏水」、全線トンネルで第1疏水の北側を並行する全長約7.4kmの「第2疏水」、京都市左京区の蹴上付近から分岐し北白川に至る全長約3.3kmの「疏水分線」などから構成されます。

明治維新後、東京遷都により人口が減少し衰退した京都を憂えた第3代京都府知事の北垣国道は、復興策として琵琶湖から水を引き、その水の力で産業振興を図る「琵琶湖疏水」の建設を計画しました。東京の工部大学校（現在の東京大学工学部）を卒業したばかりの田邊朝郎などとともに着手した工事は、4年8箇月の歳月を費やして明治23（1890）年に完成します。琵琶湖疏水を活用した水力発電や水車動力は産業を大きく発展させ、舟運により人や物の行き来が盛んになるなど、京都は新たな活力を得ることとなりました。

それから20年後には、さらに豊かな水を求めて第2疏水を建設し、上水道を整備しました。また、道路幅を広げ、市営電車を日本で初めて開業をしたことで、今日の京都のまちづくりの基礎ができました。120余年の時を経て、琵琶湖疏水は今なお京都に命の水をもたらし続けているのです。（琵琶湖疏水記念館 HP より抜粋）



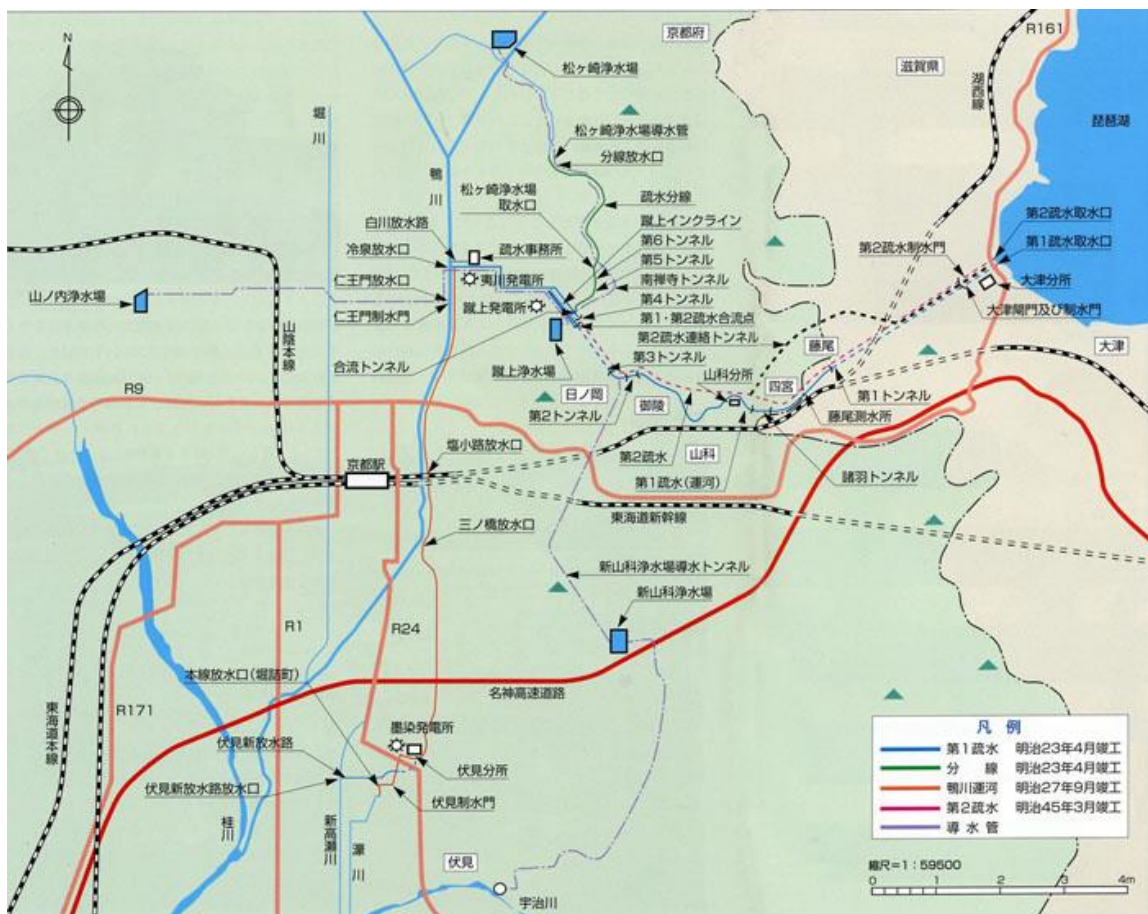
第1疏水縦断面図

断面図、次頁年表とも「琵琶湖疏水」京都市上下水道局水道部疏水事務所 H21/9 改訂より

参考文献等（解説文・図表の最後に表記のないもの）

Wikipedia、「琵琶湖疏水の歴史散策」第3版 H30.12.30 近代京都の礎を見る会発行

「車石」－江戸時代の街道整備－ H24.3.3 大津市歴史博物館編集・発行



現在の琵琶湖疏水全体図（京都市上下水道局 HP より）

年 月	項 目	備 考
明治14年 1月	北垣国道京都府知事に着任	
8月	三保ヶ崎浄水場を設け	
16年 2月	島田道生線測量を完了	
5月	田邊南郎琵琶湖疏水工事の担当に着任	
11月	北垣知事勸業諮問会、上下道連合区会に赴き趣意書を諮問	
17年 5月	琵琶湖疏水（第1疏水・大津～鴨川及び分水嶺）起工を内務卿に提出	
10月	〃（ 〃 ）起工再行を内務卿に提出	
18年 1月	〃（ 〃 ）起工許可（内務卿）	
6月	〃（ 〃 ）起工式を挙げる	
20年 5月	煉瓦工場跡地に落成	明治22年5月廃止
12月	第2トンネル 完成	
21年 8月	水路開 完成	
9月	第4トンネル、第6トンネル 完成	
10月	田邊南郎、高木文平とともに水力利用調査のため渡米	
22年 3月	第3トンネル 完成	
4月	市制施行により京都市が誕生（市制特例）	東京市・大阪市とともに
10月	大津開門 完成	市制特例を施行
23年 1月	第5トンネル 完成	
〃	〃 敷上インクライン 完成	昭和23年11月運転休止
2月	第1トンネル 完成	
〃	〃 鴨川運河（第1疏水・鴨川～伏見）起工を内務大臣に提出	
3月	琵琶湖疏水（第1疏水・大津～鴨川及び分水嶺）完成	
4月	〃 竣工式を挙げる	
6月	鴨川運河工事起工許可（内務大臣）	
9月	京都市有疏水運河使用条例制定	
24年 5月	鳳上発電所 完成	日本最初の事業用電力発電
11月	〃 送電を開始（インクラインダム工場地）	
25年 1月	電気事業許可（京都府知事）	
11月	鴨川運河 着工	
27年 9月	〃 完成	
28年 2月	京都電気鉄道 伏見線開通	営業としては日本最初の電気鉄道
29年 4月	河川法公布	
35年 4月	第2疏水開閉を京都府に出願	
38年 9月	〃 を送電業に出願	
39年 4月	第2疏水開閉許可（京都府、送電業両知事の連署）	
41年 2月	第2疏水工事施行認可（京都府、送電業両知事）	

年 月	項 目	備 考
明治41年 10月	京都市三大事業起工式を挙げる	三大事業
42年 5月	鳳上浄水場（水道施設事業）建設に着手	第2琵琶湖疏水の建設・上水道の建設、道路拡
45年 2月	第2期鳳上発電所 完成	築及び電気軌道の敷設
3月	第2疏水・第1疏水鳳上～伏見の改修 完成	日本最初の急流下遊式を
〃	〃 浄水場完成（同年4月給水開始）	採用
5月	第2疏水通水許可（京都府、送電業両知事）	
6月	京都市営電事業営業開始（三大事業竣工式）	
大正2年 4月	運河法公布	疏水運河免許
3年 4月	夷川発電所完成、使用開始	
5月	伏見（里菜）発電所 完成	
昭和6年 4月	伏見開門 完成	
16年 8月	配電統制令公布	
17年 4月	電気事業を関西配電（株）に移管	
26年 12月	疏水分岐鴨川以西を土木局に移管	
36年 8月	〃 旧白川通以北を土木局に移管	
45年 5月	第1疏水津羽トンネル完成（国鉄関西線建設による）	
47年 3月	「哲学の道」 開通式	
48年 11月	二の橋こみち 開通式	
49年 5月	疏水路（大津～鳳上）整備事業完了 （第2疏水・昭和43年度～昭和45年度） （第1疏水・昭和46年度～昭和48年度）	
51年 4月	六善寺の小道 整備完了	
52年 5月	鳳上インクラインの復元（形質保存）完了	
53年 3月	山科地区疏水沿線を東山自然緑地公園として整備	
57年 11月	鳳上広場に田邊南郎博士の銅像を建立	
58年 7月	南禅寺水路園及び鳳上インクライン京都市の指定史跡となる	
59年 2月	伏見地区疏水右岸の歩行者専用道路建設に着手	
6月	「哲学の道」のゲンジコガタ及びその生息地が京都市の登録天然記念物となる	
63年 3月	疏水路（堀小路下流）改修完了	
平成元年 3月	疏水路（堀小路）監視制御設備事業 完成	
8月	琵琶湖疏水記念館開館	
2年 3月	疏水路（冷泉～堀小路間）改修工事完成	
4月	北垣国道知事銅像再建	
〃	〃 琵琶湖疏水竣工100周年記念式を挙げる	
8年 6月	第1疏水関連施設の12箇所を国の史跡に指定	
11年 3月	第1疏水緊急遮断ゲート 完成	
11年 12月	第2疏水連絡トンネル 通水	
18年 2月	農林水産省 琵琶湖疏水を疏水百選に選定	
19年 11月	経済産業省 近代化産業遺産に認定	